

翻刻「活動写真のトリックを論ず。」

〈解題〉

大正五年に早稲田大学を卒業した乱歩は、大阪へ移り貿易会社の加藤洋行に勤めるものの、翌大正六年五月には辞めてしまふ。その理由を、「毎日同じようなことをくり返して飽きない」という耐久性に欠けていた。それと、合宿生活をしていたので、独りぼっちになつて勝手な妄想に耽る（よくいえば思索する）機会が極めて少なく、これが私には耐えがたかった」と、のちに乱歩は『探偵小説四十年』に書いている。

乱歩がその人生を詳細に記録し作成したスクラップブック「貼雑年譜」の、第四四頁は「放浪（二十四歳）」という見出しが、その記述には次のようにある。

「ソシテ、一月カ一月半ノ放浪ノ後、東京ニ舞ヒ戻リ、本所区中ノ郷竹町ノ仕事師ノ家ノ二階ヲ借りテ、身ノ廻りノモノヲ賣ツタリシテ露命ヲツナイデヰタ。先輩ニハ顔向

ケガ出来ナシシ、父ノ家ヘモ帰リニクイシ（ソノ頃父ノ家ハ大阪ニ移ツテヰタ）ドウスルコトモ出来ナイデ、一日一日ト決心ヲ延バシテヰタワケデアル。活動写真会社ヲ訪ねテ弁士ダツタカラ志願シタノモコノ時デアル。當時ノコトハ左ノ隨筆ニ書イテヰル。

映画横好き 大正十五年「映画と探偵」誌（平凡社全集第十巻二収ム）

今ソノ隨筆ヲ讀ミ返シテ見タガ、ヤハリ弁士志願デアツタ。上野ノ圖書館ニ通ツテ外國ノ映画ニ関スル書物ヲ讀ンダノモコノ時デアツタと思フ。ソノ智識カラ後ニ映画論ノヤウナモノヲ書イタワケデアル。」

会社を辞め大阪を出た乱歩は、箱根から伊豆の辺を放浪し、東京にたどり着く。そこで活弁を志願した乱歩は、弁士の江田不識を紹介され会いに行くが、この職業のつまらなさと収入の少なさを説かれて断念する。この時期に上野図書館で映画関係の本を読んでいた、と「映画横好き」に書いている。

「貼雑年譜」の別の頁にある、乱歩が住居の軌跡を記した「東京市ニ於ケル住居轉々ノ圖」で確認すると、21が「本所区中之郷竹町ニ間借りリスト」となつていて、期間は「六年六月頃。一ヶ月ホド」となつてている。「京阪地方住居

移轉地圖」のほうも見ると、20「大阪市轍中通二丁目 加藤洋行二階ニ寄宿」が大正五年八月から大正六年五月、22

「大阪市亀甲町父ノ家」が大正六年七月から十一月とある。

東京から呼び戻された乱歩は、このあと大阪の父の家でしばらく暮らし、タイプライターのセールスなどをする。十一月から三重に移り鳥羽造船所に勤務するのだが、ここも大正八年には退社することになってしまふ。そして東京に戻り、古書店「三人書房」を開く。雑誌「東京パック」の編集や、支那ソバ屋などを経験したのはこの時期である。

八年十一月には、鳥羽で知り合った村山隆と結婚する。そして「智的小説刊行会」という組織をつくり、自ら雑誌を発行しようと計画するのだが、刊行までには至らなかつた。翌大正九年、「貼雜年譜」の七六頁は、「映画監督志願（二十七歳）」という見出しで、次のように書かれている。

「智的小説刊行会ガウマク行カナカツタノデ、同年七月二ハ、大正六年加藤洋行ヲ逃げ出テ上京シタ時圖書館デ調

ベテオイタ資料ニ基キ、映画論ヲ書キ、複寫ヲ取ツテ、目星シイ映画会社ニ送リ、監督見習ニ採用シテクレルヤウ頼ンダノデアルガ、無論何ノ回答ニモ接シナカツタ。ソノ論

文ハ

トリツク映画の研究 四十三枚

映画劇の優越性について（附、顔面藝術としての寫眞劇）

九枚

ノーツデ活動写真論文ノ袋ニ収メテアル。」

この記述にもあるように、乱歩の映画論は、大正六年六・七月に調べた資料をもとに、大正九年七月に執筆されたもの、ということになる。「東京ニ於ケル住居轉々ノ圖」では28「本郷区駒込林町六。三人書房」「八年二月——九年十月」という期間に当たる。

『悪人志願』（博文館 昭和四年六月）は、大正十四年から昭和四年までの、乱歩初期の隨筆を集めたものだが、内容ごとにAからFまで六つに分けられたうち、劇と映画に関するものが「E」の章としてまとめられている。映画については「映画横好き」「探偵映画その他」「映画いろいろ」があり、これらはいずれも大正十五年に雑誌に発表されたものである。

先に見た「貼雜年譜」の記述にあるように、「映画横好き」は乱歩が映画論を準備していた頃を回顧した文章で、當時上野図書館で見た書物として乱歩が挙げているのは左の本である。

Ratubun—Motion picture making and exhibiting

Talbot—Moving picture

Hufish—Motion-picture work

Dench—Making the movies

Hale Ball—The art of the photoplay

Münsterberg—The photoplay (a psychological study)

Practical Cinematograph and its application

National board of censorship

権田保之助—活動写真の原理及応用

梅尾庄吉—活動写真百科宝典

三田谷啓一活動写真に関する調査

このうち梅尾庄吉『活動写真百科宝典』、権田保之助『活動写真の原理及応用』については『日本映画論言説大系 第Ⅲ期 活動写真の草創期』(ゆまに書房 一〇〇六年)で復刻されている。またミュンスター・ベルヒ(ムンスター・ベルヒ)の映画論の一部は『映画理論集成』(フィルムアート社 一九八二年)でも読むことができる。

リストにあげたこれらの映画論のうち、ミュンスター・ベルヒのものと権田のものに啓発されたと乱歩は書いている。権田保之助『活動写真の原理及応用』は大正三年の刊行である。カメラや映写機のような技術的な面から、映画の美学あるいは社会的な役割といったところまで書かれてい

る。まだ映画に関する術語が定まっていない段階での、先駆的な著作であった。

ムンスター・ベルヒ『映画劇 心理学的研究』は、心理学と美学の二つの面から映画をとらえたもので、日本にも大きな影響を与えた。ムンスター・ベルヒは、「心理試験」の考案をしたことでも知られる心理学者である。彼は映画をスクリーン上のものとしてではなく、観客への影響という側面からとらえて、その錯覚の効果を重視した。

乱歩が映画の資料をあさった大正六年当時は、まだ映画についての理論書は少なかった。権田の『活動写真の原理及応用』は大正元年の刊で、世界的に見てもかなり早い時期のものと言える。ムンスター・ベルヒのものは原書が大正三年であり、邦訳が刊行されるのは大正十三年である。日本映画界に大きな影響を与えることになる帰山教正の『活動写真劇の創作と撮影法』が、同時期の大正六年であり、『キネマ旬報』の創刊が大正八年であることを考へても、映画に関する言説の蓄積はまだ浅かったことがわかる。

日本において映画に関する言説が急増するのは大正後期であり、先の乱歩の大正十五年の隨筆もその流れの中にあつたと言えるだろう。しかしそれで大正十二年に「二銭銅貨」

を発表し、探偵小説家としていくつもの作品を執筆していく乱歩は、映画論を書く方向へは進まなかつた。

とはいへ、乱歩が映画への関心を全く失くしたというわけではない。『探偵小説四十年』の大正十五年の記述にはこうある。

「本位田準一君が、探偵映画のプロダクションを作ることを計画し、色々その方面に働きかけたことがあり、その計画に威勢をつけるために、横溝君に来てもらおうじやないかと、私の名で神戸の同君に、「スグコイ」という電報を打つたものである。横溝君は本当にプロダクションが出来ることと思って、早速上京して來たが、そんな話がうまく行くはずもなく、結局無意味な上京に終つた。しかし横溝君は薬剤師よりも、文学の方に引きつけられていたので、東京に留まりたい気持ちもあり、私が間に立つて、森下さんから『新青年』に入ることを勧め、遂に東京に落ちつくことになったのである。」

のちの横溝正史の歩みを決定づけるこのエピソードは、横溝自身も『探偵小説五十年』などの自伝的文章で触れている。

またこの時期には乱歩作品の映画化の企画も進んでおり、それについても「貼雑年譜」や『探偵小説四十年』に記述

されている。このように、乱歩と映画とのかかわりはしばらく続くのだが、その関係は原作者としてのものだけになつていつた。乱歩の映画経験はこれから後、小説の舞台として撮影現場が登場したり、スクリーンにひとの顔面が大写しになる場面が描かれたりするといったかたちであらわれることになる。

江戸川乱歩邸に残された資料の中に、乱歩自身がまとめたいくつかの封筒入りの資料がある。これまでにこの『大衆文化』等で紹介してきた「人間椅子」草稿や、「D坂の殺人事件」草稿といったものは「EXTRAORDINARY」と書かれたものに入っていた資料である。他に「MUSIC」「LIFE&LOVE」「ECONOMICS」といったものがある。

今回紹介する映画関連の資料は「MOVIE」と書かれた封筒に入っていたものである。このうち、「写真劇の優越性について」については、「文学」(岩波書店)二〇〇二年十一・一二月号で浜田雄介氏によつて紹介されている。「MOVIE」の封筒には「大正六年 二十四歳 活動写真論文」とある。

その中身は
映画論

活動写真のトリックを論ず

トリック分類草稿

トリック写真の研究

写真劇の優越性について

という五点の資料である。

これらは、内容的には、芸術としての映画の位置づけを論じた「映画論」「写真劇の優越性について」と、映画撮影における技術的側面を考察したそれ以外のものとに、二分することができる。「会社、監督、俳優の名前を少しも知らない」と後に書いているように、乱歩の関心は偏ったものだつたと言えるだろう。

今回翻刻したのは「活動写真のトリックを論ず」である。

これは二十五字×二十四行の原稿用紙に書かれているもので、十二枚が残っている。振つてある番号は飛んでいて、おそらくは長篇論文の草稿の一部であると考えられる。

ここで論じられているのは、映画におけるトリックの意義と、その分類である。乱歩が映画におけるトリックにどれほど関心を寄せていたかは、乱歩の映画論のなかに占めるトリックの割合からも知ることができる。もちろん映画 자체が一種のトリックであると言ふこともできるのだが、

ここで乱歩が述べているのは、さらに技巧的な要素の加わった映像のことである。乱歩がこの文章を書いた時期には、たとえばメリエスの「月世界旅行」のような、映像を見て驚嘆するような映画はすでに下火になつていた。こういつたなかで、多くのトリックを分析することを通じて、乱歩は映像トリックの可能性を考えようとしていたのだつた。

映像トリックの蒐集と分類の情熱が、後年の探偵小説におけるトリック分類といったものへつながつていったことは、容易に想像できるだろう。日本の探偵小説においてトリックの位置づけが問題になつていく展開と、それへの乱歩の影響の大きさを思えば、この段階での乱歩の個人的なこだわりが、非常に重要なものであつたと考えられるのではないか。

(落合 教幸)

「」消してある部分

——挿入部分

■ ぬりつぶしてある文字

□ 判読できなかつた文字

活動寫眞のトリツクを論ず。

「○トリツクと寫眞劇との関係。」活動寫眞は元來夫自体に於て一種のトリツクである。彼は個々のヒルムの連續を以て、看者に活動の幻覺を生ぜしめる。彼は手毬の運送を、或は看者に活動の幻覺を生ぜしめる。彼は手毬の運送を、リーン上に寫りたる映像を以て看者と莫大の觀念を起させる。彼は彼の本質に於て立派なトリツクである。即ち活動寫眞とトリツク即ち欺くこと云ふ事とは切つても切れぬ關係を以て居る。——

「○トリツクと寫眞劇との関係。」活動寫眞は元來夫自体に於て一種のトリツクである。彼は個々のヒルムの連續を以て看者に活動の幻覺を生ぜしめる。彼は平面なるスクリーン上に寫りたる映像を以て看者に奥行の觀念を起させる。彼は彼の本質に於て立派なトリツクである。即ち活動寫眞とトリツク即ち欺くといふ事とは切つても切れぬ關係を以て居る訳である。

茲に論ぜんとするトリツクは世の所謂トリツクなるもので、上述の如き活動寫眞の本質より直接生ずるものではなく、それに多少技巧的分子の加はつたものを指す。この種の、所謂トリツクなるものが活動寫眞の価値に貢献する所歟からぬ事は云ふ迄もない事であるが。ある人の云ふが如く、活動寫眞に与「ふべき」へらるゝ賞賛の半分はトリツクの享くべき所である、など、云ふ説は肯かれぬ。殊に寫眞劇の立場から云へばトリツクの如きは第二次的のものである。寫眞劇の「本質」（真価）は寫眞劇そのものに存するので、トリツクは只之を助ける有力なる助手の役目

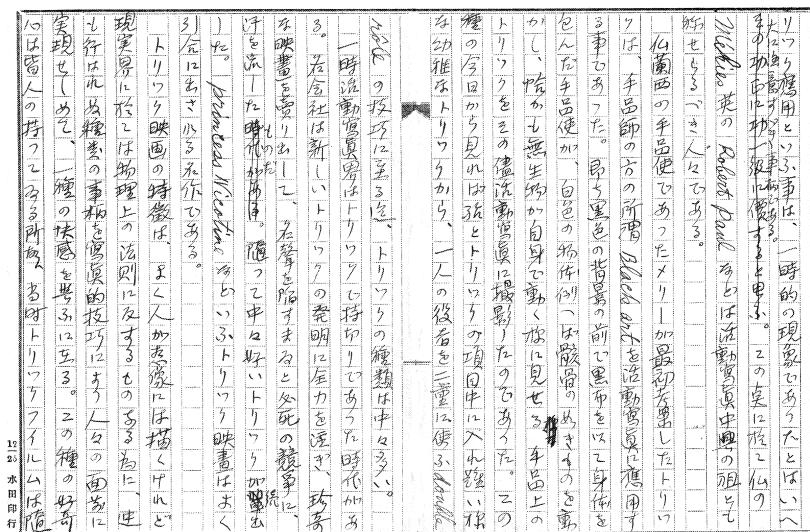
を務むるに過ぎぬものと思ふ。

かくは述べるもの、この所謂トリックなるものが、活動寫眞の發展に資した事は非常なもので、その功決して没却すべきでない。今日の如く興味ある寫眞劇のない、動くといふ事以外に余り看客を呼ぶ力のなかつた、「當時」昔日の活動寫眞に、偉大なる看客吸引力を与へたト

リック應用といふ事は、一時的の現象であつたとはいへ「その功正に功一級に値すると思ふ。」大に注意すべき事柄である。この点に於て仏の Melies 英の Robert Paul などは活動寫眞中興の祖とも称せらるべき人々である。

仏蘭西の手品使であつたメリーが最初考案したトリックは、手品師の方の所謂 Black art を活動寫眞に應用する事であつた。即ち黒色の背景の前で黒布を以て身体を包んだ映畫は、手足等を露出する事なく、その上にトリックを乞ひ、其聲を附す事なく死の様子(死の顔)を現す。左金社は新しいトリックの発明に全力を注ぎ、珍奇な映畫を多く作つて、其聲を附す事なく死の顔等を現す。右の手品使は、手品師の方の所謂 Black art を活動寫眞に應用する事であつた。即ち黒色の背景の前で黒布を以て身体を包んだ映畫は、手足等を露出する事なく、その上にトリックを乞ひ、其聲を附す事なく死の顔等を現す。

トリック映畫の特徴は、主に人か生物には描くべしと現実界に於ては物理上の法則に反するものある為に、運行は必ず機械の事柄を写眞的技巧(写眞的技術)によつての手品に実現せしめて、一種の快感を與ふる。この種の好奇心は皆人の持つてゐる所然である。



12-25 水田印行

今すがらいいをきかぬものではあつた。然るに柔らか手でうしてトリフォウ映画段は、
えふ来た。田世慶旅行などか地獄旅行などかの風の聲
術圓は今日では見るとか出来ぬ。写レトロトロ撮影
寫のものかが驚き泣いたのはない。昔のトリフォウ映画
はトリフォウ甚めか玉ひがつた。このトリフォウかせひごろ
が織れたりワタ映画、寫真脚の脚か玉ひトリフォウは
後、筋を運ぶへまへまへまへまへまへまへまへまへま
リワクを立とする寫真の裏へた空引くとこはだの四つを
立てる事

(1) 有馬
カトウ ワタの秋山を知りて
之江橋き
王と高

卷之三

(3) 漢字による書類の記述	(2) 手書きによる書類の記述
12. 以上の一連の事項を 12. 以上の一連の事項を	12. 以上の一連の事項を

支那の種類別流の発達したところ

故に人間の離れていたトライフル山に執着一二ある
おもしろい現象の原因で七手数の引、うなぎの鳴

萬葉歌集卷之二十一
方加得集歌
五所から、若命化かト

うるゝ夕やくの月はトキワノ月見木なり

12—25 水田印行

分すばらしい全盛を極めたものであつた。

各会社は新しいトリックの発明に全力を注ぎ、珍奇な映画を売り出して、名声を陥すまると必死の競争に、汗を流した「時代がある」〔ものだ〕。随つて中々好いトリックが〔輩〕〔続〕出した。Princess Nicotineなどいふトリック映画はよく引合に出される名作である。

トリック映画の特徴は、よく人が想像には描くけれど現実界に於ては物理上の法則に反するものなる為に、逆も行はれぬ種類の事柄を寫眞的技巧により人々の面前に実現せしめて、一種の快感を与ふに在る。この種の好奇心は皆人の持つてゐる所故、當時トリックフィルムは隨

然るに榮ゆる事数年ならずしてトリック映画「か」は段々衰えて来た。月世界旅行だとか地獄旅行だとかいふ風の魔術寫眞は今日では見ることが出来ぬ。然しひと撮影法そのものが影を没したのではない。昔のトリック映画はトリック其物が主であった。このトリックが亡びて今度生れたトリック映画に於ては、寫眞劇の筋が主でトリックは従、筋を運ぶべき一手段として取扱はれてゐる。かくトリックを主とする寫眞の衰へた原因としては左の四つを揚げることが出来る。

おうかの名前で、
その顔が何事かに驚いて莫大な
金を失つたり、アーヴィングの旗を用ひて争うのは、必ず高慢に
自己改悔の意味の如きは、正義を説きに立つるもの

(2) 尚な寫真を要求し出した事。
(1) 看客がトリックの秘密を知りて之に懼き、もつと高

(3) 舞台上の演劇に似たものを寫眞して看物の注意を引き得る程撮影法の発達したこと

(4) トリック映画を作るには、普通映画に比し多大の時日「と随つて□莫大の費用を」と面倒と二を要すること。

故に人気の離れ「かけ」(始め)たトリックヒルムに執着してゐるよりも、変化が自由自在で而も手数のか、らぬ普遍の寫眞劇に乗り換へた方が得策だといふ所から、各会社がトリック熱から醒めた訳である。

今日では、突飛なるトリックは只ある種の「奇」喜劇に応用せらるゝのみで、他は凡て「トリックト見え■ぬトリックとして」眞実性を帶びたトリックとして眞面目なる方面に用

ゐられて居る。現に我国で旧劇忍術などに盛に真実性を欠いたトリツクの応用せられてゐるのは、ある意味に於て歐米活動寫眞界の過去の歴史を繰り返してゐるものとも見

られる。

然し、トリック主眼の映画と雖も、何か新味ある方法を伴ふならば決して捨てたものでない。凸坊漫画帖なるものが流行するのを見てもこの間の消息を解し得ると思ふ。只撮影に一日時を多く要する点は「考」注意すべき短所である。

トリックの種類は極めて多い。過去に於て行はれたもの「支け」斗りでも随分大変なものである。もう種がつきたとは云ふもの、寫眞的技巧の天才が出づれば、またどんなトリックを発明せぬとも限らぬ。僕が貧弱な頭で考へた「ば」支けでも随分新トリック応用の余地はある。随つて、トリックの一方法を茲に列挙することは勿論、夫れを分類して「記」代表的のもののみ記すことも、極めて困難な仕事である。試みに僕の知つて居るものを集めて勝手な分類をして見た。こんな風にも見られぬことはないであらう。

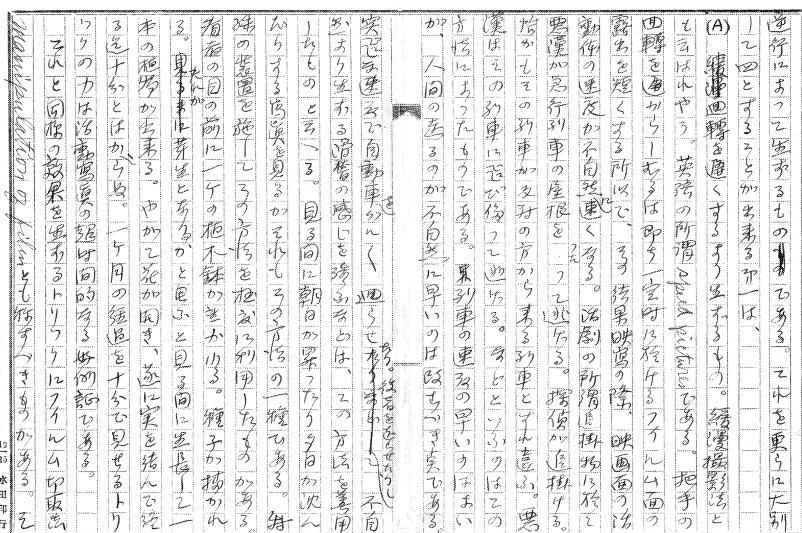
トリック撮影の主たる原因となるものを標準として、トリックの方法を大体四つに分つことが出来る。即ち撮影器の把手に関するもの(1)フィルムに関するもの(2)撮影器のレンズに関するもの(3)撮影器以外の装置に関するもの(4)それである。

(第一項) 撮影器の把手に関するもの。

この種のトリックは、把手廻転の遅速、中「止」断、及び

逆行によつて生ずるもの「もの」である。これを更らに大別して四とすることが出来る第一は、

(A) 「緩漫」廻転を遅くするより生ずるもの。緩漫撮影法とも云はれやう。英語の所謂 speed pictures である。把手の回転を遅からしむるは即ち一定時に於けるフィルム面の露出を短くする所以で、その結果映写の際、映画面の活動体の速度が不自然に速くなる。活劇の所謂追掛物に於て悪漢が急行列車の屋根を「つた」って逃げる。探偵が追掛けた。恰かもその列車が反対の方から来る列車とされ違う。悪漢はその列車に飛び移つて逃げる。などといふのはこの方法によつたものである。■列車の速度の早いのはよいが、人間の走るのが不自然に早いのは改むべき点である。突飛な速度で自動車を「グル／＼廻らせ「たりなどし」たり。役者を走らせたりして、不自然より生ずる滑稽の感じを誘ふなどは、この方法を善用したものと云へる。見る間に朝日が昇つたり夕日が沈んだりする寫眞を見るがそれもこの方法の一種である。特殊の装置を施してこの方法を極度に利用したものがある。看者の目の前に一ヶの植



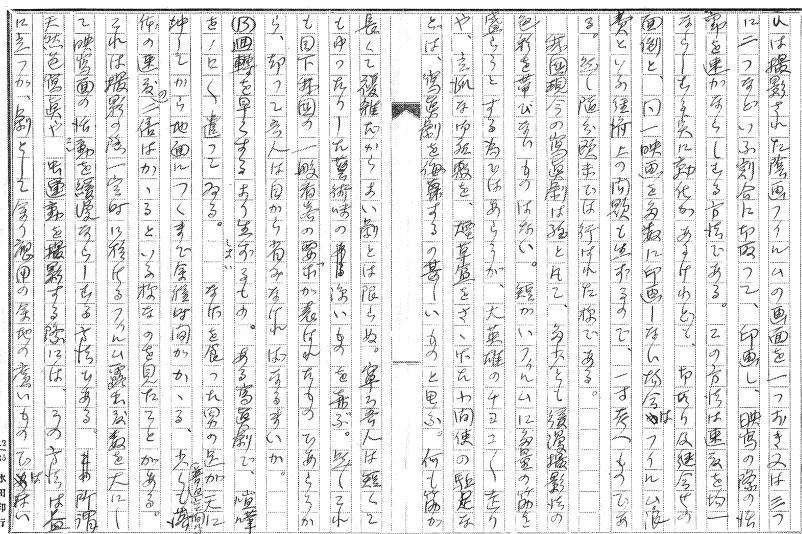
進行はあつて歩くもの歩ひある。云ふを更に大判
一二回とすらうとかあ第三印一は、
（A）被瀧画轉を廻くするすう生ずるも。被瀧撮影法と
之は本やう。英語の所謂のfilmである。把子の
四轉を廻から一もさは即ち當時に於けるフイルムの面の
露寫を廻くする所以で、云う被瀧映寫の聲、映寫面の活
動体の運度が不同で更くある。活動の所渭被瀧物は於て
露寫が急行列車の屋根を「一二」廻る。機械が直掛かる。
搭かしてこの列車が又の方向へある車と云ふ。被瀧
は云の列車は並び傍へ廻る。云とソノリコの
方情はあつたものひある。累列車の車の字いはすい
か、人向の走るのか不自然に早いは既ち云ひある。
被瀧は被瀧の被瀧の感じを残さねば、云の方法を實用
したの云々。圓三郎は朝日が昇つたり下りか次へ
ふらひ立つて身を覺ゆるがまゆも云うの一種である。被
瀧の被瀧を施して云うの方法を被瀧の御用いたす
被瀧の御用に、云うの被瀧の筆がゆる。被瀧の被瀧の
事事作業者と有りと云ふと云ふ間に被瀧一二
本の被瀧が出来る。やがて花が開き、遂に葉を残へて老
る乞うとばかりだ。一ヶ月の短いを十分に見せるト
ワクの方は活動寫真の題材に向ひ好んでゐる。
云ふと同様の被瀧を被瀧するトワクは、ソノルムの被瀧
が行なはれず、云ふと云ふと云ふと云ふ。

木鉢が置かれる。種子が播かれる。「見るまに」夫のが芽生となるかと思ふと見る間に生長して一本の植物が出来る。やがて花が開き、遂に実を結んで終る迄十分とはか一、一らぬ。一ヶ月の経過を十分で見せるトリックの力は活動寫眞の超時間的なる好例証である。

それと同様の効果を生ずるトリックにフィルム切取法 manipulation of filmとも称すべきものがある。そ

れは撮影された陰画フィルムの画面を一つおき又は三つに二つなどいふ割合に切取つて、印画し、映写の際の活動を速からしむる方法である。この方法は速度を均一ならしむる点に効化があるけれども、切取り及継合せの面倒と、同一映画を多数に印画しない場合「の」はフィルム浪費といふ経済上の問題も生ずるので、一寸考へるものである。然し随分欧米では行はれた様である。

我国現今の寫眞劇は殆ど凡て、多少と緩漫撮影法の色彩を帶びないものはない。短かいフィルムに多量の筋を盛らうとする為ではあらうが、大英雄のチヨコ／＼走りや、立派な御屋敷を、煙草盆をさげた小間使の駆足などは、寫眞劇を侮蔑するの甚しいものと思ふ。何も筋が長くて複雑だからよい劇とは限らぬ。寧ろ吾人は短くてもゆつたりし



人は撮影するに際して、フレームの画面を一つずつスローフラッシュで観察する方法である。この方法は運命法と呼ばれる。

（ア）もとより高価であるから、却つて吾國に多くある者もある。この方法は運命法と呼ばれ、同一映画を多數に印画して、各会場で販売する。

（イ）然て随分手間であるが、一寸考へてみると、

我が國の専門劇場は施設と共に、多少とも緩漫撮影法の色彩を帯びる。譬如いふと云ふと、大英雄のナショナル劇場や、新劇の帝都座、煙草店さざなわ向使の恵美恵子は、物語劇を演じる所で、何を跡か

長くて複雜なからず、其と相違なく、寧ろ零細な所であつて、

（ア）圓盤を早く回す。あらゆる所で、男の足が天

ノロ／＼走つてゐる。「しよい」なげを食つた男の足が天

に□つてから地面につくまで余程時間がかかる、少くも

普通空間に於ける落体の速度の一・二倍はかかるといふ

様なのを見たことがある。これは撮影の際一定時に於ける

フィルム露出度数を大にして映写面の活動を緩慢ならしむる方法である。「この」所謂天然色寫真や「コン」虫運動を撮影する際には、この方法は益に立つが、劇として余り応用の余地の廣いもので「あ」はない。

然かも如何に精巧な機械の發明があつたとはいへ、一定時に於けるフィルム露出度数には際限のあるもので、逆も緩漫撮影法の様に自由には行かぬ。

（イ）回転の中斷により生ずるもの。撮影中斷法とも云ひ得る。英語の所謂 stop picture(motion) stop motion な one turn などに相当する。即ち一時撮影を中断して被撮影物にある変化を与へた上更に撮影を継続して、映写の際には「看者をして」一箇連続せる活動の如「く」き幻覺を生ぜしむる

た藝術味の「ある」深いものを喜ぶ。然しこれも目下我国の一般看客の要求が表はれたものであらうから、却つて吾人は自から省みなければなるまいか。

（乙）回転を早くするより生ずるもの。ある寫眞劇で、喧嘩をノロ／＼遣つてゐる。「しよい」なげを食つた男の足が天

に□つてから地面につくまで余程時間がかかる、少くも

普通空間に於ける落体の速度の一・二倍はかかるといふ

様なのを見たことがある。これは撮影の際一定時に於ける

フィルム露出度数を大にして映写面の活動を緩慢ならしむる方法である。「この」所謂天然色寫真や「コン」虫運動を撮影する際には、この方法は益に立つが、劇として余り

「おまえも。妹の医道の手本だ。」
也。ハツヒ電子商に、賊るまゝの海加、黒澤樹に贈り
て、静く死んで落花にこの世の物の効用が吹きぬけた。シート
リツクは初めて想うる範囲の狭く、今日だけは外で重い

ものだけでも枚挙に遑がない。然し原理は孰れも同一である。(イ)共に hold it, freeze, stop' 我国の所謂、極まで下下さいの厳重に守るゝ事「を」が最も注意すべき点である。

(ハ)「画面又は数画面毎に中断を行ひ主として被撮影物の位置「[を]」形状を変ずる方法。one tuen one picture principleとも呼ぶる。この方法の主たる目的及効果は無生物自から活動するが如き幻覚を具へる点に存する。一例は、「大工の」指物師の部屋が現れる。鋸がノコ／＼出て来て自りでに其所にある板を切り始める。錐が遣つて来て穴を□む。釘がその穴に足を入れると、ヒヨコ／＼と椎が飛■んで出じられる。■トリックの秘密を分つてゐても見た目に面白いものである。

他の例は、黒〔と〕背景に白の単純なる形を以て影画風に人や動物などを「現は」活動せしむる所謂 Silhouette trick である。近頃実際の人間が幕の蔭で活動してポンチ風の映画を慥へる方法が行はれ始めた様であるが(先般電氣館上場米国パラモント会社製作のもの、如き)茲に云ふ Silhouette trick は始め英國の C、アームストロングと云ふ人が、(1)

の裏側の人の形でから書かれて、おとぎ風の字を
描いて出でた。何が何だ。一時流行りたましく、三小僧
高僧上の尊名に御用として大いに活躍をしたのである。

の眞個の人間の影画から思ひついて、ポンチ風のものを作り出した■由である。一時流行したらしく、それを「広商業上の広告に応用して大分効果を得たなどいふ例もある。この影画式ポンチ風の映画が進歩して今日の所謂凸坊漫画帖なるものが出来たらしい。昔活動寫眞の始めて興業せられた頃、今の様な「凸」ポンチ寫眞と、海岸の岩に激浪の打上げてゐる景色の映画と何れを面白いと思ふか問はれたならその頃の人は必ず後者の不思議を採つたに相違ない。今は凸坊漫画帖の持て囃さるる所以は、實物の活動といふ事に左程の不思議を感じなくな「つた事と」、りこの種のトリックの妙を喜ぶ一般の一□映画力が發達した事にあ

所謂凸坊漫画帖にも製作法によつて二派がある。一つは背景その他全画面を一々書いて、活動すべき個所だけ少しづゝ、形を変へて行く方法で、他は、背景は終始不变の一枚の画を用い、「その画面上に」一人や動物の画を「描いてその形に」、「人の形又は他の動物の形に」切抜いて動くべき個所「を」だけにある変化を与へて活動せしむる方法である。「後者は時間」手間を省く不性な方法である、「やり方で、□□に時間を取る困難はあるけれどもその困難に答へるだけ、なほ以上に効果のあるのは前者である。近頃□

おなじ風の落葉が舞ふ事は重複するが、この落葉が
何うしておなじ風の落葉かと問はば、前回の
所を讀んである。しかし、前回の所は、
假影の舞ヒルムを書く。

□見るものは大抵前者である。」ポンチ画といふものは動かすとも可也面白いものである。共に動かぬ場合で比較すれば、チャリーチャップリンが如何に滑稽な態度を示して居ても、一枚の上手に描かれた

ポンチ画の滑稽味に勝る事は出来ぬであらう。この点から見てもポンチ画の活動「といふ事は」寫眞は利用の仕様によつて相当将来のあるものであらう。

(E) 逆回転するもの。Reversals 撮影の際にヒルムを逆に回転せしめて出来た映画を映写の時正式に回転することによって生ずるトリックである。必ずしも把手を逆に回転すると定まらぬ。焼付の際ノ手続、カメラの装置等によつて把手に關係なく出来上るものもある。併しその理屈は凡て同一である。この種のトリック應用の方法として重なるものが三通りある。

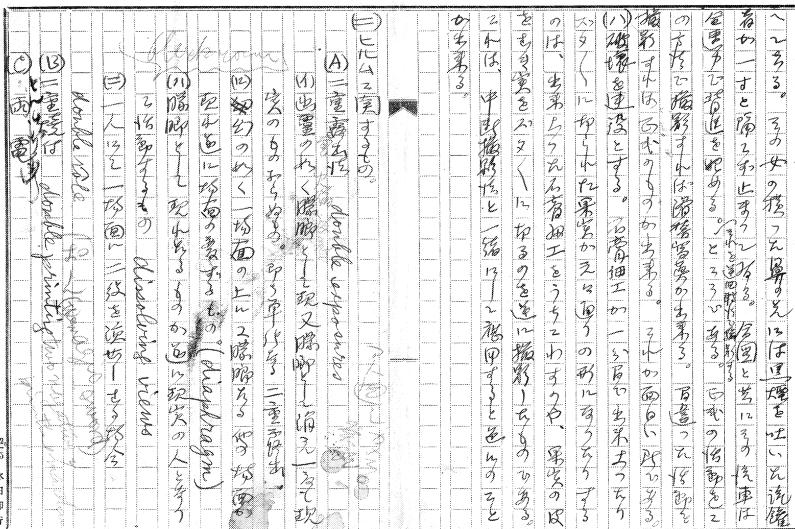
(イ) 下降を昇騰となすもの。昔の滑稽寫眞によく、主人公が
巡查などに追詰められて橋の上から川に飛び込み、「巡」
追手が続いて飛び込んでアプ／＼やつて居る間に、今度は
逆に水面から橋の上に飛び上つて逃げ出すなど、いふのが
あつた。即ちこれである。大きな球などが自りで坂路を上
り開いた窓へ飛び込むなどいふのもこれである。一寸中断

撮影法と誤り易いものである。

(1) 前進を逆行とするもの。好妙なる一例がある。汽車の線路に一人の女が縛つたまゝ、横へられた。汽車は轟天にやつて来る。一人の男が走つて来て將に汽車の救助器に触れんとして居る女を助ける。若し之を本当にやれば極めて危い仕事である。マネジャーの採つた方法はこうである。先づ男が縛られた女を抱えていそぎ足にあとじさりをしながら線路の上にやつて来て大急ぎで女を線路に横

へて去る。その女の横つた鼻の先には黒煙を吐いた汽罐者が一寸と隔てず止まつて居る。合図と共にその汽車は全速力で背進を始める。(それを逆回転法で撮影する) ところである。正式の活動をこの方法で撮影すれば滑稽寫真が出来る。間違つた活動を撮影すれば正式のものが出来る。これが面白い所である。

(2) 破壊を建設とする。石膏細工が一分間で出来上つたりズタ々に切られた果実が元々通りの形になつたりするのは、出来上つた石膏細工をうちこわすのや、果実の皮をむき実をズタ々に切るのを逆に撮影したものである。これは、中斷撮影法と一緒にして応用すると色々のことが出来る。



(二) ヒルムに関するもの。

(A) 二重露出法 double exposures

- (1) 幽霊の如く朦朧として現又朦朧として消え一度も現実のものならぬもの。即ち単純なる二重露出。

- (2) 「幼」幻の如く一場面の上に又朦朧たる他の場面が現れ逆に場面の変ずるもの。(diaphragm)

- (ハ) 朦朧として現れたるもののが逆に現実の人となりて活動するもの

(1) 一人にて一場面に二役を演ぜしむる場合

double rôle

(B) 二重焼付 double printing

(C) 両電

(三) レンズに関するもの

(A) 俯瞰撮影法

- (イ) 水中

- (ロ) 建物駆上り

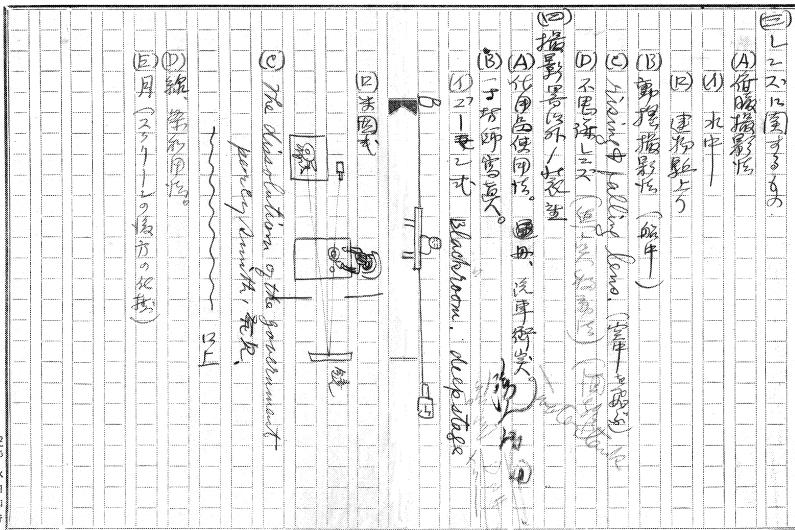
(B) 動搖撮影法 (船中)

(C) rising & falling lens (空中を飛ぶ)

- (D) 不思議レンズ (焦点移動法)

(四) 撮影器以外ノ装置

- (A) 代用品使用法 ■ 舟、汽車衝突



(B) 一寸坊師寫眞。

(イ) ハーモン式 Blackroom deepstage

(ロ) 米国式

○The dissolution of the government

以上

(D) 線、□利用法。

(E) 月 (スクリーンの後方の仕掛け)

(立教大学大学院博士後期課程・立教大学江戸川乱歩記念
大衆文化研究センター)